

## 基礎文献購読 2010年度 春学期

担当 岩村 英之

### 1 本演習の趣旨

大学の講義の大半では「レポート」の提出が課されます。ところが、高校までの教育でレポートを書くことは稀なため、1年生の多くは、何を要求されているのか、どのような作業を行えばよいのか、戸惑ってしまうことでしょう。

この演習では、レポート作成を大きく3つのステップ -- 理解する 拡張する 表現する -- に分け、ひとつひとつを詳しく見ていきます。具体的には、ふたつの出題例を材料に3つのステップを踏んでみることで、レポート作成の流れを体験してもらいます。

加えて、レポートと感想文の違い、高校までの学習と大学での勉強の違い、卒業論文・ゼミとは何かといった大学生活に特有の問題についても、皆で考える機会を持ちます。

### 2 本演習の目標

この演習に全て出席し、全ての課題を提出すれば、以下の目標を達成することができます。

- ・ レポートにおいて何が求められているかを理解することができる。
- ・ レポート作成の作業のイメージを掴むことができる。
- ・ レポートの形式を身につけることができる。

### 3 教科書

[小笠原喜康、『新版 大学生のためのレポート・論文術』\(講談社現代新書\), 講談社, 2009年.](#)

日本語で書くレポートの「形式」について網羅されています。レポート作成の際に傍らに置き、参照しながら書くとよいでしょう。レポートには何が求められているかについても、過度にストイックでない常識的な見解が述べられていて、初めて読む大学1年生をして「これならできそう」と思わせる好著です。

### 4 授業計画

実際にレポート課題を取り上げ、それらを少しずつ進めていくことで、レポート作成の実地訓練をしていきます。課題は2つ取り上げます。ひとつは文章を読んで考察するタイプのもの(例題A)、もうひとつは映像を見て考察するタイプのもの(例題B)です。

最後に、例題Bのレポートの発表をしてもらいますが、プレゼンテーションの指導をするのはこのときだけです。近年プレゼンテーションが重視されていますが、うまいプレゼンのコツは、結局のところ、何を言いたいのか自分自身がしっかり理解していることだと私は考えています。メッセージが明確でないのにスライドだけ美しく仕上げて、評価にはほとんど影響しないでしょう。そ

の意味で、1年生諸君にはまずは考えること・理解することに注力していただきます。

## 5 注意して欲しいこと

- 毎回課題が出されます。したがって、準備として毎週2時間程度の時間を割かなければなりません。「月に1回まとめて8時間勉強すればよい」のではなく、「毎週コンスタントに2時間」です。
- 提出された課題は、コピーして参加者全員に配布され、教員からコメントするのみならず、参加者どうしでもコメントを交換してもらいます。同じ学生の書いたものを見ることは、上級者の書いたもの以上に参考になるものです。また、立場によらず、他者の意見が重要であることを実感するでしょう。
- 自分の書いたものが他人の目に触れることに強い抵抗を感じる人は、本演習を志望しないように。

## 6 成績評価

- 授業の性質上、欠席が3回を超えるようでは目的が達成されません。したがって、自動的に成績評価の対象外(=E)です。3回を超えない欠席については、無断欠席でない限り特に減点対象にはしません。
- 病気等の急なケースを除き、欠席する場合でも課題は事前にメールで提出してください。したがって、課題を全て提出することも単位取得の必要条件です。病気等急な欠席で事前に提出できない場合も、回復の後に必ず提出してください。
- 他の参加者の発表に注意深く耳を傾け、どんなことでもよいのでコメントするよう心がけてください。あまり黙っているようでは減点対象となります。改善点を指摘することは、礼儀・親切であって攻撃・意地悪では決してありません。
- 以上の要件をクリアすれば、原則として不可になることはありません。演習で作成するレポートの完成度が高い場合には、「S」評価を差し上げることもあります。

## 7 参考書

「レポート作成法」「文章作法」といった類の本は多いので、敢えて違った角度から以下を挙げておきます。

[飯田泰之、『ダメな議論』\(ちくま新書\)、筑摩書房、2006年。](#)

論理的にものごとを考えるためのコツを解説しています。ときどき、勝手な思い込み(「熱意」と間違っって呼ばれることもある)で一氣に書かれたレポートや、ひたすら結論だけを連呼するレポートを見かけますが、導入から結論までの展開が論理的でないレポートは、そもそも採点対象

基礎文献購読  
2010 年度 春学期  
岩村

になりません．

本書は，非論理的な思考法にもとづいた推論（ダメな議論）の特徴を解説することで，論理的な思考法を浮かび上がらせています．

毎回課題を出します．A4 用紙 1 枚程度にまとめて，その週の土曜の正午までに岩村までメールで送信してください．

[iwamura@k.meijigakuin.ac.jp](mailto:iwamura@k.meijigakuin.ac.jp)

出来る限りそれぞれにコメントを書き込み，翌週の講義時に全員分コピーして配布します．

各自，他の受講者の書いたものにも目を通し，参考にしてください．できれば，気になったものについては本人に直接コメントしてあげてください．

私のウェブサイトにも本演習のページを作成します．

<http://www1.meijigakuin.ac.jp/~iwamura/>

毎週の課題や参考文献など掲載していく予定です．